



朝のあいさつ運動

校長 村上正幸



笑顔であいさつ

「おはようございます」児童玄関前に響き渡るさわやかな声。企画委員会を中心に、朝のあいさつ運動を行っています。児童玄関には企画委員会のメンバーや当番学年の子供たちが並び、登校する子供たちに握手をしながらあいさつを呼びかけています。握手をすることにより、一人一人の手の温もりが伝わってきます。「目を見てあいさつをしましょう」「元気よく大きな声であいさつをしましょう」に握手が加



わると、人間の五感で感じるあいさつとなります。手を握ると自然に「温か手だね。先生の手、冷た〜」など、次の会話が出てきて、身近に感じます。また、6月14日(火)～17(金)に、入善町さわやかあいさつ運動が行われ、地域や入善高等学校の皆様とともにあいさつ運動に取り組むことができました。

この運動が契機となり、子供たちだけでなく、家庭や地域へとあいさつの和、心の和が広がっていくことを期待いたします。

物の住所を決めよう



子供たちが落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組むことができるようにするための大事な要因の一つに教室環境があります。

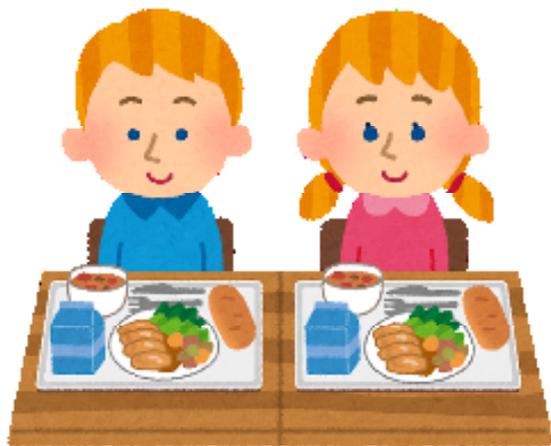
道路を歩いていると植え込みの隙間に空き缶やお菓子の袋が落ちているのを見かけることがあります。そのままにしておくと、次から次へと空き缶などがその場へ捨てられていくようになります。「ごみ一つぐらい、他の人もしている

から」と後ろめたい気持ちがありながらも、ついつい易き方向に気持ちが動くようになっていきます。

教室環境も同様です。朝、教室へ入ったとき、整然と並んでいる机と椅子を見ると気持ちが引き締まります。ロッカーの整理整頓も同様です。「物には住所があり、その住所をみんなで話し合いながら決めよう」と、まずは、教室の後ろのロッカーの「物の住所決め」に子供たちのアイデアも生かしながら一緒に取り組んでみました。中には、机の住所も決めた学級もあります。物の住所が決まると、学習の準備がスムーズになり、学習の時間確保にも効果があるようです。

ご家庭でも、お子さんと物の住所について話し合い、実践されることをお勧めします。

給食試食会を終えて



6月9日(木)、給食試食会を行いました。「みんなきちんと食器を持って背筋を伸ばして食べていました」「食事のマナーがよく、おしゃべりをしてはいけない時間があるのはよいことだと思います」「もぐもぐタイムがあるのに驚きました。家でも取り入れたいです」「主食、副菜、味噌汁に野菜が多く使われており、好き嫌いがある子にも食べやすくとてもよかったです」「5・6年生のお兄さんお姉さんが下級生の面倒をしっかりと見てくれていました。自然と年上の子が年下の子に教えるということ



身に付けていくのがいいですね」など、給食試食会に参加いただいた1年生の保護者の皆様より、子供たちや給食に関わる教職員への励みとなるような言葉をいただきました。多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。今後とも安全・安心、そしておいしくて楽しい給食を目指して努めていきたいと思ひます。

自尊感情を育むために、記憶の定着のために



給食試食会当日、参加いただいた1年生保護者の皆さんに、池原教育長より子育てのポイントについて話をさせていただきました。参考にさせていただければと思ひ、そのその要旨をお知らせします。

- ・ 子供たちに「ありがとう」などと声を掛けてやっていただきたい。そのことが、自分は役立っているんだという自尊感情を育むことになる。
- ・ 子供たちに十分睡眠をとらせていただきたい。睡眠をとらせるためには、朝早く起こすこと。睡眠をとることにより記憶が定着する。朝食をしっかりとることにより、脳を働かせる。
- ・ 子供たちに笑顔に向けてやっていただきたい。等々

ちょっといい話

6月初旬頃、東公園で近所に住んでおられる方と一緒にごみ拾いをした上学年の子供たちがいたと聞きました。観音祭り後、20日(月)の朝、福寿会の皆様と一緒に、全校で入善地区内のごみ拾いを行いました。自分たちが生活する地域の環境に関心を持ち、地域を愛する心の育成をねらいとしています。そして、このような活動を通じた地域の方々との触れ合いも大切です。

東公園でごみ拾いをしてくれた子供たち、全校でのごみ拾い、そして、それを応援して下さった地域の皆様からの心温まるいい話に感謝いたします。

認知症サポーター養成講座



寸劇で楽しく学びました

入善町役場高齢福祉係、包括支援センター、おあしす新川在宅介護支援センター、JAはびねすの皆さんに来校して頂き、5年生の子供たちを対象に認知症サポーター養成講座が開催されました。今後ますます、お年寄りが多く、子供が少ない高齢化社会を迎えるに当たり、認知症を発症した方への接し方について考えるよい機会となりました。「認知症は、周囲の人々の接し方が大事である」「優しい言葉をかけてあげると気持ちが楽になる。一緒に手助けしてあげると悩みや苦しみが軽減される」等について寸劇やクイズを通して学びました。